



(右上から時計回りに) 長い尾びれとヒョウのような模様が特徴のトラフザメ▶ヒョウ柄でなく、しま模様のトラフザメの幼魚▶かごしま水族館にきた2匹のトラフザメ。水槽の底で仲良く寄り添う姿も見られる

トラフザメ

学名 *Stegostoma fasciatum*

分類 テンジクザメ目 ジンベエザメ科

分布 太平洋、南シナ海、インド洋、オーストラリア沿岸

食性 海の底にいる貝類や甲殻類、魚類などを食べる肉食。

特徴 体の半分ほどを占める長い尾びれが特徴的。模様は成長に伴って変化し、幼魚のときは名前の通りトラのような「しま模様」で、大きくなると黄色がかった体色に黒点がある「ヒョウ柄」になる。ジンベエザメ科に属するおとなしいサメで、あまり泳ぎ回らず、水槽の底でじっとしていることが多い。

黒潮に乗ってきた珍種

2015年11月、指宿市の開聞岳の麓に広がる海で定置網漁をする漁師さんから「ジンベエザメのような泳ぎ方をする、ホワイトタイガーみたいな模様の魚が捕れた」

と連絡が入りました。行ってみると、船のいけすには思いもよらない魚がいました。トラフザメです。全長約170センチの雄でした。トラフザメは日本では大変

珍しいサメです。沖縄や奄美大島などの南西諸島では見られることもあるようですが、確認された正式な記録は当時、新潟、千葉、高知の各県と、沖縄県の宮古諸島しかありませんでした。鹿児島県本土周辺の海では初めての確認例です。大事に水族館へ運び、約3カ月後に水槽にデ

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

ビューさせました。

守彦

は、南の海の生きものを北へ運ぶ役割があると分かっています。多くは卵や、泳ぐ力がない赤ちゃんが運ばれます。しかし、今回のトラフザメは成長した状態で、黒潮の流れに乗って、泳いできたのではないかと考えられます。黒潮を泳いで県本土にそれぞれたどり着き、水族館でベアになった2匹。今は、赤ちゃんを期待しています。(展示課魚類展示係主任・山田)